

平成 24 年度 第 2 回愛知目標達成のための侵略的外来種リスト  
作成に向けた植物ワーキンググループ会合（12 月 18 日開催）の  
特に検討が必要な意見と対応案

意見	事務局見解（対応案）	対応状況
<p>&lt;リスト掲載種選定手順について&gt;</p> <p>・植物の場合には、一旦定着すると遷移の進行を止めてしまうものがあり、そのような個体群の永続性についても考慮すべき。</p>	<p>侵略性の評価基準の「(3) 分布拡大・拡散の可能性」の部分に、「自然環境下で個体群が永続的に維持される、もしくは定着すると遷移が進まない」を追加</p>	資料 4
<p>&lt;カテゴリ区分と評価基準について&gt;</p> <p>・全体としての評価手順をどうするのか。全体として定量化、比較評価の見込みが必要ではないか。</p>	<p>点数性や順位づけ等の比較や定量評価は、植物においては WRA の考え方等で一定の手法は示されているものの、全ての種においてデータを揃えるのは困難であり、また、ほとんどの動物ではその手法が確立されていない。今回の評価は根拠となる文献等を明らかにした上で、定性的規準で行い、定量評価については今後の課題としたい。</p>	
<p>&lt;カテゴリ区分と評価基準について&gt;</p> <p>・「ハビタットについては付加情報として整理する」とあるが、評価の際にハビタットごとに考えた方が評価しやすいのではないか。</p>	<p>侵略性の評価にあたっては、まずは生物学的条件と自然環境・社会経済的条件で評価を行う。被害・影響を評価する中では、ハビタットに関する情報は参考として活用される。また、ハビタットについての情報は、付加情報として公表・発信する。</p>	
<p>&lt;カテゴリ区分と評価基準について&gt;</p> <p>・海洋島である小笠原諸島については、特殊な生態系で他の場所との影響は相当異なる。別途検討すべき場所ではないか。</p>	<p>小笠原諸島・南西諸島において深刻な影響を及ぼす種については、別途整理する。候補種リストの中において、これらの地域の分布がなるべくわかるように整理する。</p>	資料 3 - 1 ( p 4 ~ 6 ) 3 - 2、3 - 3
<p>&lt;選定の要件について&gt;</p> <p>・分類群によっては属レベルで挙げた方がよいものも見受けられる。</p>	<p>掲載する分類単位は、種（亜種・変種）を基本とするが、属等の単位でも、生態やリスクが同様と考えられるものについては属等の単位で掲載する。</p>	

意見	事務局見解（対応案）	対応状況
<p>&lt; 侵略性の評価基準 &gt;</p> <p>・「 2 . リスト掲載種の選定（侵略性評価）」の利用による「(A) 定着の可能性」「(A) 分布拡大 / 拡散の可能性」の2つは同じことではないか。</p>	<p>利用による定着・分布拡大/拡散の可能性については、評価の項目を、海外から我が国への侵入・定着の経路があるか、又はそのおそれが高いかという視点と、我が国の国内における逸出・分布拡大/拡散するおそれがあるかという視点に分けて整理し、(A1) 定着の可能性、(A2) 分布拡大 / 拡散と分割した。根拠となる情報についても重複しないよう各観点ごとに整理して活用するよう、留意する。</p>	資料 4
<p>&lt; 侵略性の評価基準 &gt;</p> <p>・生物多様性保全上重要な地域とは具体的にどこまで考えるのか。</p>	<p>国立公園、固有種・絶滅危惧種の生息・生育地域、世界自然遺産地域等を想定している。別途、行動計画で整理する。</p>	
<p>&lt; 侵略性の評価基準 &gt;</p> <p>・栽培には必ず管理が関わるため、どういう管理がなされているのかという観点や情報も必要。</p>	<p>評価基準の「(A2) 拡散の可能性」に「 管理放棄の起こりやすさや、管理の困難性等から逸出の危険性が高いもの」を追加した</p>	資料 4
<p>&lt; 掲載種選定手順について &gt;</p> <p>・「分布拡大の実態」について整理、分析した評価が望ましい。その上で生物学的な特性が整理されるべきである。</p>	<p>地方・県単位の情報については網羅は困難だが、なるべく収集して、情報があるものについては、選定における侵略性の評価の際に情報として活用する。なお、情報収集等については、今後の外来種対策において必要不可欠な事項であり、重要な課題と認識し、作成の基本方針の&lt;リストの見直し・追加&gt;などに記載しているところ。</p>	